

§「豊岡区防災訓練」を実施しました§

◆11月17日(日)に、豊岡区防災訓練が豊岡集会所を会場にして、参加希望者21名参加のもとで実施されました。

朝9時半に橋本欣也自治会長の挨拶があり、最初に東海村防災原子力安全課の物井課長補佐から防災に関する講話があり、引き続き、日本赤十字奉仕団の皆様のご指導の下、応急手当訓練を行いました。次に、豊岡集会所に配備してある無線機の操作訓練を行いました。次に、今年度、村の補助金を活用して新たに購入した2器の水消火器による消火器操作訓練が行われました。

次に、非常用発電機の操作訓練が行われました。この発電機は、家庭用のプロパンガスボンベを接続するタイプのもので、起動後にライトを点灯させました。インバーター制御で850wの発電能力があります。

最後に、断水時の井戸水活用として、橋本自治会長から、地図を用いて豊岡区内に生活用水として使用可能な井戸は3軒ある旨の説明を受けました。

なお、豊岡区防災倉庫に、天然水ボトル288本、非常食1日3食セットを120セット、五目ごはん等を150袋、乾パン72缶を備蓄しています。また、懐中電灯、ランタン、ヘッドライト等を集会所に備えてあります。



§ 「見学研修会」を実施しました §

◆令和6年11月19日(火)に、東海テラパークと航空自衛隊百里基地の見学研修会を、28名の参加者を得て実施しました。東海テラパーク手配の大型バスで移動し、9:30から東海テラパーク講堂で竈館長から、東海第二発電所の設置経緯や発電規模、日本の発電割合、核燃料のウラン比率などの説明と、再稼働に向けた安全性向上の取組みとして、想定17mの津波から電源やポンプを守るための高さ20m長さ1.7kmの防潮堤の建設(地下60mの岩盤まで打ち込んだ太さ3.5m鋼管を600本)や、電源を絶やさないための高圧電源装置建屋の建設(地下には5,000tの淡水槽2基=7日間冷却可能)、水素再結合装置・フィルタ付きベント装置の設置など、福島第一原発事故の教訓を基にした改良工事が進んでいる旨の説明を受けてから、原発のバスに乗り、発電所敷地内の各種工事現場を車窓から見学しました。見学を終えてから、活発な質疑応答が交わされました。終了後、講堂でお弁当を食べてから、高速道路を使って航空自衛隊百里基地に向かいました。



百里基地見学前に、トイレ休憩を兼ねて、茨城空港の見学をしました。12:45頃に着いたため、残念ながら民間のジェット機は駐機していませんでした。

航空自衛隊百里基地では、3名の係官に迎えられ、入り口近くの広報館にて、百里基地の概要・設備等の説明を受けました。隊員は8部隊1,300人(内女性150人)、F2戦闘機、救難ヘリ(UH-60J)・救難捜索機(U-125A)、T-4練習機などが配備されている。主任務は、対領空侵犯対応で、24時間365日、地上レーダー等により我が国周辺空域の警戒監視を行っているとのことでした。



説明後、バスに乗り格納庫へ移動して、最初にF2戦闘機の説明を受けました。F2戦闘機は、F16戦闘機の改良型で、米国と日本による共同開発で、現在は純国産の戦闘機となっている。百里基地配備のF2戦闘機は、

対空、対艦、対地上攻撃型の戦闘機で、F-16の燃料タンクの倍の大きさになっていて、空中給油も可能で8時間以上飛ぶことができる。他の航空自衛隊に配備されている戦闘機は、最新型がF-35A戦闘機(三沢基地)、F-15J戦闘機





だそうです。救難捜索機(U-125A) + 救難ヘリ(UH-60J)は、戦闘機が墜落した時に、迅速に乗員を救出するために配備されているそうですが、ただ、そういうことはほとんど起こらないため、もっぱら災害派遣等の活動が主になっているそうです。説明終了後に、点検整備が済んだF2戦闘機4機の出撃訓練を見学することができました。最後に、百里基地生協とコンビニで航空自衛隊のお土産を購入し、16:40頃に豊岡集会所へ戻りました。

コロナ禍の影響でこの見学研修会も数年ぶりに復活しましたが、来年度も実施予定ですので、皆様奮ってご参加ください。

